

患者さんへ ～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 全身麻酔中の酸塩基平衡状態が手術後のフィブリノーゲン濃度に及ぼす影響：後方視的研究』

【研究の目的】

手術の際の出血を止めるためには患者さんの血液中にあるフィブリノーゲンというタンパク質と血小板という血球成分が重要な役割を果たしています。なかでも血液が酸性に傾くとフィブリノーゲン濃度が低下し、止血機能が不十分になる可能性がありますと言われていています。東邦大学医療センター大橋病院麻酔科では、手術中に血液が酸性に傾く現象によってフィブリノーゲン濃度が影響を受けるかどうか、を明らかにすることを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、手術後のフィブリノーゲン濃度を維持し、出血量を減らすこと、輸血量を減らすことにつながります。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大橋病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2012年5月～2018年5月までに東邦大学医療センター大橋病院麻酔科において、全身麻酔下に手術受け術後集中治療室で治療を受けた患者さん(約600例)を対象として、診療録(カルテ)から抽出した臨床データを解析します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院麻酔科

職位・氏名 教授・小竹良文

電話 03-3468-1251 内線 7607